



『木や森に関わって生きる』

Bコース秋の部 森林塾報告

国際テロだ、不景気だと明るい話題の少ない昨今、全国から十七名の方が信州伊那に集まってくれたのは明るい話題でしょう。遠くは北九州から西島さん、最年少は十八歳の菅野さん、またリピーターの方も四名見えました。お父さんやおじいさんの山がある方、また役所や森林組合に勤め、仕事として山づくりに関わってるプロの参加もありました。まちまちな



北九州からフェリーではるばる西島さん、よくおいで下さいました

動機の中、共通していると思えるのは、やはりこんな世の中だからこそ木や森や、時に土と関わったところで生きていきたい、という思いではないでしょうか。

二泊三日の短い時間の中に、相変わらざるいう詰め込みすぎたのかもかもしれません。「もつと伐倒の時間を取ってもらいたい」という声も聞きましたし、「せめて区画内は間伐を終えたかった」という要望もありました。木や森と接する時にはもつと余裕を持って、というのはい理ですが、保科先生が言われたように、「最低でも相対幹距比(Sr)と林分形状比」を初めとして、できるだけ多くの森林塾のタネを持ち帰っていただき、そして地元に戻り芽を出してもらいたいという、先生方とスタッフの願いの表れという事にしてください。

三日間を通してまあまああんな天気、この時期としては暖かな陽気の中、無事秋の部を終えることができました。三日目は昼から雨模様で、鳩吹公園のニシキギやドウダンの見事な紅葉の横での樹木分類で

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路



丹羽さんは奥三河で塾開講準備中、有志集まれ

は少し降られてしまいました。この雨が二つのアルプスでは雪に変わり、翌朝の初冠雪となったことを思えば、皆さんの普段のおこないがいかに良かったかという事でしよう。ご存知の方も多いかと思いますが、秋から冬は山仕事の季節です。地下足袋をはいて、腰にはなた、のこをぶら



とても便利な直径巻尺、只今製作中

下げて首には直径巻尺。ポケットに野帳を詰め込んで近くの山に出かけてみませんか。(でも勝手に間伐を始めたのではダメです) まずは森林調査の復習をしてください。忘れてしまったことや分からないことがありましたらどうぞお気軽に事務局まで。

今回の内容 Bコース秋の部

11月1日(木) 3日(土)

一日目

9時 島崎山林研修所に集合、先生方のあいさつ、参加者、スタッフの自己紹介、グループ分け、日程説明など

10時 小屋の外に出てなた、ノコギリの使い方の練習。続いてチェーンソーの始動、玉切り

12時 昼食

12時30分 直径巻尺つくり。皆さん間違えずに作られたようです

1時 測樹の方法の説明

2時 車に分乗して中条の小平山林に。後藤、平林班が早々と一等地を確保してしまつたので宮崎、大野班は



ゆくゆくは北海道の山手入れを画策する渡部さん

3時30分 小屋に戻り、島崎先生の説明の後、調査表の作成に入る

5時30分 時間がきてしまったので施業方針の決定は明朝にすることとし終了

6時 交流会開始。炭をおこすにはコンプレッサーを使うに限るね、椎原さん。「まずは腹一杯」派は少しの寒さをこらえて外のコンクの周りに。残りは保科先生と薪ストーブ組、島崎先生と囲炉裏&日本酒組に別れる。

7時頃自己紹介が始まり、8時頃一応終了、解散。森下

尾根の裏側、川島、椎原班は小尾根沿いにプロットをとる。ともに傾斜がきつい。直径巻尺とワイゼ測高器を使い測樹開始。傾斜のきつい班は樹高の測定が大変だ



本場から参加の鬼頭さん。板に付いている

さん岐卓の酒ごちそうさま、鬼頭さん(の奥様)三重のまんじゅうありがとうございました。大討論会は10時30分頃には終わったのだろうか



古川町の森組は森下さん等達者揃い



高炭素鋼のノコでも目立てはできます

230g、Srは4.8と超過密状態になっていました。この状態でSrを20くらいまで下げるには本数で半分近くの間伐が必要になってきます。続いてイントラ後藤による伐倒の説明。受け口が正確にできれば八割方成功です。あとはツルをちゃんと残すこと



三上さん初体験、筋は良い

10時 分乗して小坂山林へ。残す木にテープを巻き間伐開始。川島班はオーソドックスにまず手ノコで
12時 昼食 火にあたるほどは寒くはないが、焚き火の炎がいい感じ。イントラ川島のぶり縄デモ。最年少菅野さん、少しの指導です。うらやましい。
1時 間伐再開。宮崎班、川島班はともにSrが11とか12とかで恐ろしく過密。しかも樹高もあり、おおかたかり木になってしまいい、苦労する。

木村さん、西島さん、太いアカマツを伐倒し輪切りのお土産
4時 間伐終了。グループごとにチェーンソーで。伐倒の練習、次にチェーンソーで。



かかり木になるのを防ぐため予めロープをかける木村さん

山林主の小坂さんがりんごやビールの差し入れ。ありがとうございました
2時 質問、先生方の講評
3時 終了
参加者/江尻さん、大月さん、大森さん、菅野さん、鬼頭さん、木村さん、小林さん、鈴木さん、長澤さん、西島さん、仁科さん、丹羽さん、三上さん、森下さん、安井さん、山本さん、渡部さん

高炭素鋼のノコでも目立てはできます
4時 間伐終了。グループごとにチェーンソーで。伐倒の練習、次にチェーンソーで。

講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/大野、川島、後藤、椎原、平林、宮崎、坂野、早川



昨日と同じくらいの時間だったのだろうか。島崎先生の「寝るぞ」という声とともに一同解散

次回以降の予定
第13回 11月10日(土) 保科山林の見学
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。
いくつかの希望が出ていたが、皆さんに伺ったところ、保科先生の山林見学の希望が多かったため、それにさせてもらいます。伐木造材希望者の方ごめんなさい。
他県からのカラマツ林見学ツアーで必ず訪れる、戸台のカラマツ林ほか何箇所かを見せていただく予定です。
なお車は分乗で。
第14回 12月1日(土) 炭焼き、そばうち
ドラムカン窯などで炭焼きをしてみます。
例年、窯に炭材を仕込んで火をつけたら、そばうちを始めて、ちょっと遅くなりますが、お昼はそばを頂きましょう。そばだけでは不安な方、不満な方はお弁当持参のこと。
例年そばうち講師をしてくれるOB大野さんが今年は？なのでどなたか講師をお願いします。(菅さんあたりかな)火の番をしつつ、夕方からは希望者による忘年会に突入というパターン。会費千円。窯出しは翌朝になりますので都合のつく方は朝までお付き合ってください。雑魚寝になります。シユラフあれば持参下さい。

リレー通信

自己紹介

江尻 圭吾



できればさげたいと思っ
ていたリレー通信の依頼が来て
しまいました。昔から文章と
いうものが大の苦手なので
す。読書感想文の宿題を泣き
ながら(?)書いた遠い日の
思い出がよみがえります。文
才があれば山奥で暮らして現
代のソローを目指していたか
も。

私は今年のBコース入夏の日
に続いて二回目の参加になり
ます。作業自体の楽しさと、
森林塾の持つ独特の雰囲気、
特に参加される皆さんの様々
な経歴や思いのお話が忘れら
れず連続参加となりました。

また、理解したつもりになっ
ていた事でも改めて「ああな
るほど」と思う事が多く、参
加して大変良かったです。作
業の方は、当然の事ですがす
ぐに身に付くはずも無く、進
歩はほとんど見られません。
練習のためにも定期的に作業
できる場があればと思いま
す。

私は、(こつ見えても)普通
のサラリーマンをしています
。最近では伝統的な農村の技
術等に興味を持ち始めまし
て、いろいろと講座などに参
加しています。しかし、勤め
人しながら片手間にやって
も限界があり、もっと深く
やってみたいと思う物もあり
ます。一方、近々幼子を持つ
予定の身でもあり、糧と言う
物を考えるといろいろ思索に
明け暮れています。ただ、他
の参加者の皆さんの話を聞いて
思うのは、私には語るもの
がない、つまり自分の考えの
元となるバックボーンという
べき実体験が無いなあとつく
づく思います。今は楽しみと
いった範囲を出さない
までも、興味を持つ
た身近な事から出来
る範囲でもっと活動
していきたいと思っ
ています。

という事で割り当
て紙面の3/4を残
して早くも書くこと
が無くなってしまう

たため、趣味の事で書こう
かと思えます。

【歩くスキー】

私はそもそもスキーがやり
たくて長野県を就職先に選ん
だので、当然スキーには狂っ
たように行っていました。が、
ここ三年ほど行かなくなりま
した。と言つのも、歩くス
キー”という新しい趣味には
まっけてしまったからです。
真つ白な誰も踏み入れていな
い雪原を歩いて行くときの快
感はないかな表現しづらいも
のがあります。ここでちょっ
と説明しますと、私がしてい
るのは野山の比較的平らな
フィールドを歩いて楽しむス
キーです。オリンピックで行
われているクロスカントリー
スキーをイメージされる方が
多いのですが、あれは、走る
スキー”です。私は根性ない
のであんな苦しそうなる事は
できません。私の道具はテレ
マークスキーと分類されるも
のらしいです。歩くスキーに
は様々な楽しみがあります。
大勢で行くときの楽しみは昼
食です。荷物を分担していっ
て雪原で豚汁をした事もあり
ました。ちょっと起伏の有る
ところでは、”滑る”楽しみ
もあります。冬のきれいな
山々の景色を見る楽しみもあ
ります。そんな中で私がか
なり気に入っているのは、一人
で行ったときの、冬の森の静
けさです。シーンと静まり

返った森のなかで静かに
ボーッと木々を眺めていると
森の一部になったような気分
になって来るのです。野生動
物にも会ってみたいと思っ
ているのですが(熊は動弁した
いですが)、まだそのチャン
スはありません。

【家庭菜園】

最近の春、秋にかけて休日
に最も時間を費やしているの
は畑仕事です。60㎡程の畑を
借りて家庭菜園をしています。
よく通りがかりの人等に
”若いのにようやるねえ”な
どと珍しげに声をかけられま
すが、単純に趣味として非常
に楽しいです。ただし、無計
画かつ思いつきの内容となっ
ている為、家計にはほとんど
貢献できていません。猫の額
ほどの広さですが、手作業で
行うには十分です。今現在は
半分は雑草畑になっていま
す。自然農法です。うそっそ、
単なる言い訳です。目標は野
菜は買わないで済む事です
が、それにはまだまだ知識も
技能もズクも不足していま
す。(意味通じないかたごめ
んなさい、信州方言です)

【手作り食品】

今年の春、初めて味噌を仕
込みました。信州ではあまり
珍しい事ではないかもしれま
せんが、私にとっては全く初
めての事なので新鮮な事
でした。半年たって先日様子を見
てみましたが、まだまだ麹く

さく、ただしよっぱいだけ
でした。気長に待つことにしま
しょう。

梅干しは二年目で、これは
成功しています。通販で買っ
た紀州南高梅です。売り物に
は無いしよっぱさが気に入っ
ています。今年は少し減塩し
たらかびが少くなりましたが、
大丈夫そうです。去年の白菜
漬けは何故が大失敗しまし
た。今年は白菜と大根が結構
収穫できそうなので、再挑戦
です。野沢菜をやらないと信
州人の資格なしでしょうか。
次はどぶろくかビールに手
を出してみたいです。(大き
な声で言うてはけない?)

【炭焼き】

これは現在の趣味では無い
のですが、先日二泊三日の体
験講座に参加してちょっと気
に入ってしまった。徹夜
作業でしたので辛かったです
が、本格石窯による白炭で、
かなり堅い櫛炭が出てきまし
て感激しました。個人で気軽
にできる事ではないですが、
また機会があればやってみ
たいです。

以上です。今後とも、縁が
ありましたら、よろしくお願
いします。



リレー通信

山師への道

山浦 広樹

今年の四月に森林塾が始る
前、私の上には大きな不安が
のしかかっていた。それは:
私は、昔からおつちよこちよ
いなことと不器用さにかけて
は定評がある。そんな私が、
緻密(?)な計算や熟練の技
を要する山造りを学ぶ森林塾
に参加して大丈夫なんだろう
か。山仕事に関して全く何の
知識も経験もないのに、みん
なについていけるんだろーか
。というものだった。

さて、いざ始めてみるとそ
の不安はみごとの中し、聞く
ことを見ることすべて新しいこ
とばかりで(当然だが)、理解
できないことや、うまくでき
ないことばかりで、困惑と
まどいの連続だった。その中
でも、特に強烈に印象に残っ
たある日のできごとを書いて
みようと思う。

その日は、朝起きた時か
ら、原因不明の腹痛に襲われ
ていた。その日というのは、
第十一回の森林塾の日、十月
六日のことである。トイレに
いくと、ものすごいスピード
で物体というかほとんど液体



が落下してゆく。…そう下痢
だった。(食事中の人ごめん
なさい)「昨夜何か悪い物食
べただろーか?」思い当たる
ふしはない。ただ怪しいと言
えば、寝る前に飲んだサト
リーのビール(発泡酒)が非
常に苦かったこと、それだ
けだ。そんなものが当たるん
だろーかなど考えているう
ちに、出かけなければ間に合
わない時間に。全く痛みが治
まる気配はないがしかたがな
い、御嶽百草丸を三十粒程口
にほうり込んで家を出る。

と、長い縄を前にして先生の
講義がすでに始っていた。一
時の激しい痛みは治まってい
たが、どつしても意識が腹の
方に行ってしまう、話に集中
できない。そのせいか、教
わったとおり忠実に縄を編ん
でいるつもりなのに、できた
ものは何か違う。(不器用の
せいではない。体調のせいだ
ある)両側とも微妙に違っ
て、そのつどインストラク
ターのMさんのお世話にな
る。やさしく教えて戴いて何
とかアイ加工完了。そこへ手
木をつけてやるとブリ縄が完
成する。(しかし、こんな体調
の時にぶり縄という響きはど
んなものか)その後しばらく、
縄の縛り方を教わるが、
この辺りからだんだん気分が
悪くなる。一向に集中でき
ず、何度聞いても覚えられな
い。休んだ方がいいかと思
うが、せつかくぶり縄ができ
たのに、登り方を教わらなけ
れば意味がない。クリープを
入れないコーヒーマイナも
んではないか。(フ、古すぎ
!!)それまでがんばることに
する。(このがんばりが

後の命取りに…)
今度はインスタラク
ターGさんの班で、ぶ
り縄の掛け方を教えて
もらう。一段目はO
K!わりと簡単に登れ
た。しかし二段目ど
うしてもアプミが作れ

ない。何分間も苦闘するがど
うしてもできない。おかし
い、こんなはずじゃあとよく
考えると案全帯をはずしてし
まっていた。手が離せないわ
けだ。やつこのことで二段目
に登る。もうこの時は体力を
だいぶ消耗して、三段目
に挑戦する気力は残っていな
かった。何かクラクラする
し、早く降りようと思うが、
一体どうやって降りるんだ
あ。Gさんが言う。「その靴は
ちよつと厳しいですねえ」
と。しまった!!枝打ちまでに
地下足袋を買ったつもりでい
たのに、すっかり忘れてい
たア。しかしもう登ってし
まっている。降りるしかな
い。足を巻き付けて少しづつ
…と思ったのもつかの間、速
い!滑るスピードがものすこ
く速い。「下に手木あるじゃ
ん、あれどつすんだー」と足
を掛ける間もなくそのまま落
下!!ズズズズー ガンツ
痛ツ ウウウ:弁慶の泣き所
ではなく男の泣き所を痛打!!
(but玉ではない方)うー
あまりの痛さにしばらくうず
くまるしかない。額と言わず
全身の毛穴から汗が噴き出て
くるのがわかる。おまけに、
さつきまで腹に集中していた
意識がそつちの方に行つたた
めか、腹までモーレッツに痛く
なってくる。もー最悪。史上
最悪の日というのはこういう
日をいうのか。おお神よ

フラフラの状態でありなが
らもその後の、島崎・保科両
先生の木登り実演には魅了さ
れた。寸分の無駄のない動
き、失礼な言い方だけどお年
を感じさせない身のこなし、
熟練の技とひと言で表現して
いいのかわからないけれど、
まるでそれは一つの芸術作品
ようであった。「オレもいつ
かあんな風になれるのだろ
うか。道は遠い…」
両方の痛みプラス自分の悪
さが増したこの状態で、午後
の部はともやれそうにな
い。早川さんに腹痛で早退す
る旨をチン痛な面持ちで告げ
る。「疲れからきているんで
しょう。ゆっくり休んで下さ
い」という温かい言葉があり
がたい。かくして、この日は
山浦午前中でリタイヤとなつ
たのである。あゝ情けな。
教訓
一、地下足袋は早く買つべし
一、手木には気をつけること
一、体調の悪い日は休むこと
一、異常なまでの苦しいビール
は飲まないこと
最後に…リレー通信を読む
たびに、この森林塾に通つて
きている方一人一人の、日本
の山に対する思いだとか、森
林塾にかける意気込みなどが
伝わってきて「ほんとにすご
い人たちだなあ」と常に感心
させられています。私は、山
を含めた自然が大好きで、何
か自然に関わる仕事ができ

ばいいなーと漠然とした気持
ちで参加してしまつたので、
みなさんの情熱とパワーには
頭が下がります。やつとみん
なとうちとけてきた頃なの
に、あと残り数回になってし
まって寂しいですねえ。
将来、第八期生の同級会
(?)みたいな形で集まれる
といいですね。もちろん島
崎・保科両先生を囲んで、ス
タッフの方たちと一緒に。
もうひとつ最後に…原因不
明の腹痛と下痢はその後も三
日間続き、原因明確なもう一
つの痛みの方は、あの激痛は
嘘だつたのかと思われるほど
次の日にはなくなり、普通の
状態に戻っていたのでした。

コラム

今年の紅葉は、台風が多
かったり、秋口の日中の気温
が高かったり、あまり綺麗
じゃないそうだが、それでも
色とりどりに染まる山肌には
目を奪われる。太陽光が斜め
に差し込む時間帯に森の中
でゆっくりしてみたい。ただ
じつと座っているだけでもい
い、本を読むのもいい、コー
ヒーを沸かして飲むのもい
い。そんな休日をもう少し楽
しんでいたいと思う。
けれど、冬もやってくるの
で、山仕事用の装備を揃える
ことにした。スパイク付き長
靴と登山用の靴下二枚、フ
リース素材の手袋が中には
いった登山用手袋(もちろん
五本指のやつ)、登山用のア
ンダーウェア各種、フリース
素材の帽子と耳当て。結構な
出費だったけど、これに手持
ちのカツパとフリースを加え
れば、冬の山仕事はもちろ
森の中でいるんな動物の足跡
を探したり、樹の冬芽を観察
するにも寒くないはずだ。
「テッカマン」
おわりに
立派な薪ストーブを使って
いる森林塾OBの言葉が身に
しみます。「薪ストーブなん
か入れると人間墮落するよ
というものですが、確かに昼
間でも十分に暖まつた家から
出たくない。
そういえば保科先生も「冬
の夕方、部落の会合などで出
かけるのはつらい」とおっ
しゃっていましたっけ。
両先生はじめスタッフのス
トープ持ちも多い。墮落した
人間として言い訳をさせても
らうと、春から夏の間、アリ
さんのようにこつこつ薪をた
めたのだからこのくらいの墮
落は大目に見て欲しい。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、
ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

